ブルーカーボンに関する取組の推進方向概要（改定案）

【目指す方向】ブルーカーボン生態系など多様な役割を持つ藻場の保全・創造を推進し、「水産業の振興」と「ゼロカーボン北海道への貢献」との両立を図る

1.ブルーカーボンへの期待

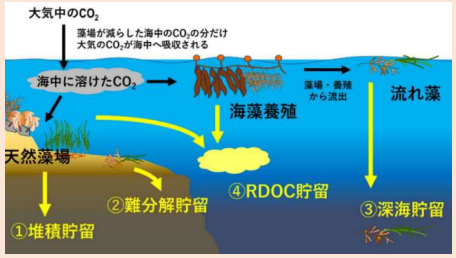
①ブルーカーボンについて

<ブルーカーボン生態系>

海草藻場（アマモ等）

海藻藻場（コンブ、ワカメ等）など

<ブルーカーボンの二酸化炭素貯留プロセス>



②国内外の状況

・国連環境計画(UNEP)の報告書の発表(2009年)以降、新たな吸収源として注目
・国はGHGインベントリに海藻・海草藻場吸収量を約35万t-CO_2計上（令和６年４月）
・国は地球温暖化対策計画にブルーカーボン吸収量の2040年度の目標を設定(令和７年２月)

③クレジット制度

・民間クレジットをJBEが運営、取組数が増加

2.北海道の状況

①藻場等の状況

・北海道の藻場面積　：全国の**28%**
・海藻類生産量(漁業)　：全国の**67%**

②道の計画等における位置づけと協議会

・取組推進を「北海道水産業・漁村振興推進計画」「ゼロカーボン北海道推進計画」に位置付け

・「北海道ブルーカーボン推進協議会」を設置

北海道の地域特性を活かした取組の推進

3.ブルーカーボンに関する取組と道の役割

※　ブルーカーボンをとりまく状況は日々進展しており、情勢に応じて柔軟に対応していくことを基本とする。

①藻場の保全・創造の推進

操業の場や、水産資源の生育・育成の場であり、二酸化炭素吸収の機能を有する藻場の保全・創造の取組を推進

・漁場整備の計画的な実施
水産資源の生息環境の創出に向けて、魚礁や増殖場等の整備を推進

・藻場・干潟等の保全活動を支援
藻場・干潟の保全に向けて、食害生物の除去、母藻の設置、栄養塩（施肥材）の投入、岩盤清掃、干潟の耕うん等の活動を支援

・コンブ類（天然・養殖）増産対策の検討
コンブの生産増大に向け、ICTを活用した漁場の効率的管理などを促進

・試験研究機関等との連携

<藻場の保全活動等>

食害生物の除去

母藻の設置（種の供給）

栄養塩（施肥材）の投入

コンブの養殖

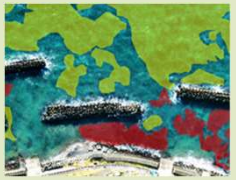
②藻場におけるCO_2吸収量の評価等

CO_2吸収量の算定等により、藻場の保全活動等を吸収源対策として評価

・道内藻場による吸収ポテンシャル評価の検討

・クレジットを取得しやすくするための環境づくり
藻場保全活動等による吸収量を算定するためのガイドラインを作成

<吸収量算定に必要な調査>



ドローン等で藻場面積を測定

養殖コンブの重量を測定

③地域における取組の推進

漁業者や市町村、企業などが連携し、地域の特性等を踏まえた取組を展開

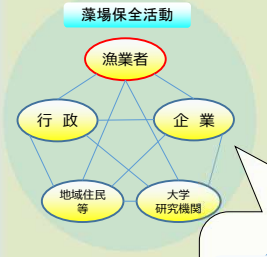
・地域における取組の活性化
地域の活動組織と、環境に関心のある企業等とが連携・協働する機会の創出に向けて、相互理解の促進と情報共有するプラットフォームを構築

・クレジットの有効活用を推進
藻場保全活動等による吸収量のクレジット化を支援

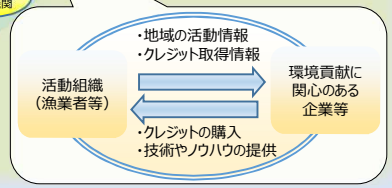
・多様な主体と連携した新たな活動の検討
関心のある企業団体等と連携・協働した取組の検討

・情報発信・普及啓発

<地域における取組の活性化>



藻場保全活動



【目標】　本道における藻場の機能（水産資源の保護・育成、二酸化炭素の吸収等）を発揮するため、藻場の保全・創造などの取組の推進により吸収量の確保を目指す。

2040年度における吸収量の目標：「22万 t-CO_2」